

評価領域	学習指導
------	------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを相手に分かりやすく伝えたり，相手の考えと比較して意見を述べたりできるようにする。 ○ 学びを学習や生活の中で生かそうとする意識を高める。
------	---

現 状	R 1 県学習状況調査 県比較 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教科</th> <th>国語</th> <th>社会</th> <th>算数</th> <th>理科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年</td> <td>-0.3</td> <td>-</td> <td>+0.8</td> <td>+0.7</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>-6.0</td> <td>+12.8</td> <td>+12.0</td> <td>-0.3</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>-2.1</td> <td>+8.4</td> <td>+13.8</td> <td>+2.4</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会，算数が県平均を上回っているが，国語が県平均を下回っていて，「条件に合わせて記述すること」「自分の考えや情報を相手に分かりやすく伝えること」が課題としてあげられる。 ・ 知識及び技能を活用する力がまだ十分でない。 	教科	国語	社会	算数	理科	4年	-0.3	-	+0.8	+0.7	5年	-6.0	+12.8	+12.0	-0.3	6年	-2.1	+8.4	+13.8	+2.4
	教科	国語	社会	算数	理科																
4年	-0.3	-	+0.8	+0.7																	
5年	-6.0	+12.8	+12.0	-0.3																	
6年	-2.1	+8.4	+13.8	+2.4																	
R 1 県学習状況調査質問紙 「1-4 ふだんの生活や社会に出たときに役立つよう，勉強したい」 (%) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>あてはまる (県比較)</th> <th>どちらかといえばあてはまる (県比較)</th> <th>どちらかといえばあてはまらない</th> <th>あてはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年</td> <td>56.2(-15.3)</td> <td>42.8(+19.4)</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>63.6(-4.0)</td> <td>36.4(+8.1)</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>81.2(+9.9)</td> <td>18.8(-6.3)</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全員が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えていて，学習を生活や将来に生かそうとする意識は高い。 ・ 「あてはまる」と言い切れる子が県平均より少ない学年がある。 		あてはまる (県比較)	どちらかといえばあてはまる (県比較)	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	4年	56.2(-15.3)	42.8(+19.4)	0	0	5年	63.6(-4.0)	36.4(+8.1)	0	0	6年	81.2(+9.9)	18.8(-6.3)	0	0	
	あてはまる (県比較)	どちらかといえばあてはまる (県比較)	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない																	
4年	56.2(-15.3)	42.8(+19.4)	0	0																	
5年	63.6(-4.0)	36.4(+8.1)	0	0																	
6年	81.2(+9.9)	18.8(-6.3)	0	0																	

具体的な目標	〈目指す子ども像〉 ◇ 自他の考えを比較・分析して，よりよい考えや学び方につないでいく子ども ◇ 学びを学習や生活の中で生かそうとする子ども ○ 県学習状況調査の各教科において県平均を上回る。 ○ 県学習状況調査質問紙の「1-4 ふだんの生活や社会に出たときに役立つよう，勉強したい」の質問において，「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合を維持するとともに，「あてはまる」の割合が県平均を上回る。
--------	--

目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 ペア・グループ，全体で自分の考えや他者の考えを説明し合ったり再構成したりする活動など，対話を通して自他の考えを分析・省察する活動を各教科等の授業に取り入れる。 2 発問を吟味し，子どもが子どもに問う活動を大切にしながら，有用性や要因，規則性など，視点を明確にした話合いを構築する。 3 研究は算数科を中心とするが，国語科の「話すこと」「聞くこと」「語彙を豊かにすること」との関連を意識した授業づくりを進め，表現力の育成につなげる。 4 生活や体験活動と関連を図った教材開発や課題設定をしたり，具体物，アンケート結果の提示など，学びの必要感を高める活動を位置付けたりして，「生活，社会，将来」から受け取る活動を工夫する。 5 学習過程に，「量感を豊かにする活動」「新たな問題解決での活用」「生活場面での活用例の提示」「学びを実感できる振り返り」を位置付け，「生活，社会，将来」につなげる活動を工夫する。
------------	--

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期前半は感染症対策のため，対話を通じた活動を充実させることができなかったが，全体での学び合いを充実させたり，学習形態等を工夫したりすることで，対話的な学びの具現を図ることができた。 ・ 「揺さぶり発問」や「問い返し」について，授業研究会や授業を見
----------	---

P

D

	<p>合う会を通して検証し、研修を深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に、授業づくりにおける「国語との関連」を明確にして提示することができた。各学年で重視する言葉を教室に掲示するなど、全校一致の実践を進めることができた。しかし、「話すこと」「聞くこと」と関連を図った日常の授業実践について、具現状況を検証することができなかった。 ・各学年において、生活との関連を図った授業づくりのもと、「量感を豊かにする活動」や「生活場面での活用例の提示」の実践が進められた。ただ、その実践を全員で共有する機会を十分に設定することができなかった。 																																									
達成状況	<p>R 2 県学習状況調査 県比較</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教科</th> <th>国語</th> <th>社会</th> <th>算数</th> <th>理科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年</td> <td>-3.6</td> <td>-</td> <td>+0.3</td> <td>+2.5</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>+6.5</td> <td>+13.5</td> <td>+12.2</td> <td>+1.9</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>+6.8</td> <td>+8.8</td> <td>+16</td> <td>-4.8</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・県学習状況調査において、各教科の正答率を県平均と比較すると、4年国語、6年理科を除いて、上回っている。下回っている教科においても県平均との差は5ポイント以内である。 ・昨年度の本調査では、国語において3学年とも県平均を下回っていたが、今年度の調査では、5年と6年で上回っている。 <p>R 1 県学習状況調査質問紙 「1-4 ふだんの生活や社会に出たときに役立つよう、勉強したい」 (%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>あてはまる (県比較)</th> <th>どちらかといえばあ てはまる (県比較)</th> <th>どちらかといえ ばあてはまらない</th> <th>あてはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年</td> <td>68.7(-2.6)</td> <td>25(+0.6)</td> <td>6.3(+2.8)</td> <td>0(-0.7)</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>81.2(-14.2)</td> <td>18.8(-9.6)</td> <td>0(-3.9)</td> <td>0(-0.6)</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>68.2(+1.1)</td> <td>22.7(-6.7)</td> <td>9.1(+6)</td> <td>0(-0.5)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙の「1-4 ふだんの生活や社会に出たときに役立つよう、勉強したい」の質問において、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えている子が、4年…93.7%、5年…100%、6年…90.9%であった。 ・「あてはまる」の割合を県平均と比較すると、4年…-2.6、5年…+14.2、6年…+1.1であり、5年と6年で上回っている。 	教科	国語	社会	算数	理科	4年	-3.6	-	+0.3	+2.5	5年	+6.5	+13.5	+12.2	+1.9	6年	+6.8	+8.8	+16	-4.8		あてはまる (県比較)	どちらかといえばあ てはまる (県比較)	どちらかといえ ばあてはまらない	あてはまらない	4年	68.7(-2.6)	25(+0.6)	6.3(+2.8)	0(-0.7)	5年	81.2(-14.2)	18.8(-9.6)	0(-3.9)	0(-0.6)	6年	68.2(+1.1)	22.7(-6.7)	9.1(+6)	0(-0.5)	
教科	国語	社会	算数	理科																																						
4年	-3.6	-	+0.3	+2.5																																						
5年	+6.5	+13.5	+12.2	+1.9																																						
6年	+6.8	+8.8	+16	-4.8																																						
	あてはまる (県比較)	どちらかといえばあ てはまる (県比較)	どちらかといえ ばあてはまらない	あてはまらない																																						
4年	68.7(-2.6)	25(+0.6)	6.3(+2.8)	0(-0.7)																																						
5年	81.2(-14.2)	18.8(-9.6)	0(-3.9)	0(-0.6)																																						
6年	68.2(+1.1)	22.7(-6.7)	9.1(+6)	0(-0.5)																																						

自己評価	<p>(評価)</p> <p>B</p> <p>(根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の県学習状況調査結果との比較において、上向きの状況になっている。 ・思考力・判断力・表現力を育む授業が推進され、R 2 県学習状況調査において、4年は3教科中で2教科、5年は全4教科、6年は4教科中で3教科で県平均を上回ることができた。 ・「ふだんの生活や社会に出たときに役立つよう、勉強したい」という意識は高いが、全員ではない。「あてはまる」のみの割合では、県平均を下回った学年がある。 	C
------	---	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされたが目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	<p>(評価)</p> <p>A</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言による臨時休校が5月上旬まで断続的に続き、今年度初めは授業のさらなる遅れによる学力低下が懸念されたが県学習状況調査では県平均を上回る結果となっている。コロナ禍による様々な制限の中、工夫し授業していただき感謝いたします。 	C
------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会では授業場面以外での補習的な取組も県学習状況調査の結果に関係しているのではないかとのご意見もいただいた。ICTを活用した授業改善を進めることと並行して補習的な時間を見いだし、子供たちの学力向上を図っていききたい。 	A
-----------------------	--	---

重点目標	○ いつでも・どこでも・だれとでも 挨拶あふれる子どもの育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・素直な児童が多く、全員落ち着いた学校生活を送っている。 ・3月から臨時休校であったが、生活習慣等で心配な児童はいない。 ・不登校（傾向）児童はいない。 ・バスや徒歩での登下校は、概ね安全に行えている。 ・感染予防の対策として、マスク着用や手洗いに取り組んでいる。 ・給食や清掃活動も予防を意識した無言での取組が行えている。 ・挨拶は習慣化されている。しかし、自主的に行える児童は高学年にかたよっている。 ・玄関や廊下等で、「○○先生おはようございます。」と名前を付けて挨拶する児童が多く見られる。 ・日中でも廊下等で「こんにちは」の挨拶や会釈ができる児童が多い。 ・昨年度の保護者アンケートから、「家族や近所への元気なあいさつ」項目において、十分満足 32 %、ほぼ満足 47 %にとどまった。 ・昨年度の児童アンケートから、「自分から進んであいさつをする」項目において、当てはまる 72 %、どちらかといえばあてはまる 26 %であった。学校で行っている挨拶が、家庭や地域では十分に行えていないといえる。 ・いじめ等の問題は、今のところ起きていない。
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートにおいて、「自分から進んであいさつをする」項目において、「当てはまる・どちらかといえばあてはまる」の割合合計を昨年同等以上（90 %～）を目指す。 ○保護者アンケートにおいて、「家族や近所への元気なあいさつ」項目において、「十分満足とほぼ満足」の割合合計を昨年度（79 %）より上回ることを目指す。
目標達成のための方策	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童会(計画委員会)中心に挨拶運動を行う。 ※継続活動 <ul style="list-style-type: none"> ・朝：玄関付近での挨拶と声掛け（おはようございます） ・昼：1Fホールでの挨拶と声掛け（こんにちは） ・定期的に小中学生合同挨拶運動を展開する。 2 シールによる笑顔パネル作成活動を行う。 <p>一日の中で挨拶等（おはよう、こんにちは、さようなら、ありがとう）をして自分の気持ちが良かった、相手が笑顔になってくれた等のプラスの気持ちが残ったら、放課後に玄関ホールでパネルにシールを貼ってから下校する。笑顔に色が付いていく活動を通して、全校での達成感を感じ合う。※数による競争ではなく、自然に色づいていく過程を全校で共有していく。</p> <p>活動が軌道にのってから、学校以外の場所での挨拶へとつなげる第二（家：おはよう、おやすみ、ありがとう）、第三（近所の人やバスの運転手：おはようございます、さようなら、ありがとうございます）の笑顔パネルを設置して、挨拶運動の意識を拡大していく。</p> 3 学校と家庭と地域が一体となった情報共有・共通実践を行う。 <p>P T A全体会等で子どもたちの挨拶の様子を話題にする。学校・家庭・地域での子どもたちの様子を確認し合い、今後の挨拶指導の方向性を共通理解・実践していく。</p>

具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、児童会（計画委員会）中心の挨拶運動を行った。 ・意欲を高めるために、スマイルキャンペーンを行った。 ・挨拶ジェスチャーで気持ちを伝える試みを行った。 	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○時間に応じた挨拶運動を行ったところ、朝は玄関前やホールでの挨拶が日増しに大きな声で交わせるようになった。日中は、「こんにちは」の励行を呼び掛けたところ、先生方や来客者や給食センターの方々へ率先して挨拶できるようになった。しかし、友達同士の挨拶には変化が見られなかった。中学生との合同挨拶運動を年2回行い、2回目には意識の高まりが見られ、元気な挨拶ができる児童がさらに増えてきた。 ○みんなで挨拶を頑張っていることを見える化するため、挨拶した分だけシールを貼るキャンペーンを行った。数の競争ではなく、みんなで一枚のパネルをシールで完成させる試みは、特に低学年の児童の意識付けに効果が大きかった。 ○冬の時期はどうしても声が小さくなり、マスク越しということで相手に挨拶が伝わりにくいため、相手に挨拶と気持ちを同時に伝えるためのジェスチャー（手をふる等）を奨励した。始めの頃は照れから反応は今一つであったが、継続して行ってみたところ、半数程度の児童は手を振りながら「おはよう」をしてくれたり、「OHY = おはよ～」のジェスチャー等を行うようになった。マスク越しでも挨拶や気持ちを伝える一つとして一定の効果が見られた。 ○コロナ禍のため、保護者との情報共有の場の設定ができない状況で、共通実践を十分には行えなかった。そのため生徒指導から「長期休業中の生活について」の便りを配布し、挨拶を含めた生活全般について家庭からの呼び掛けや見届けをお願いしてきた。 ○児童アンケートから、挨拶に対する意識は1～5段階中、平均 3.55 の値を得た。 ○保護者アンケートから、挨拶に対して「よい、概ねよい」の割合が 87.5 %であった。 	D

自己評価	(評価) A	(根拠) 本年度は長期の臨時休校があり、実質5月からの活動であったため、誰もが期待よりも不安が大きかったと思う。そんな中でも、子供たちは例年同様かそれ以上の元気な挨拶を意識して行ってきた。様々な挨拶への意識を向上させる試みを行ったが、何よりも効果的だったのは、毎日継続して挨拶運動を行うことであった。「いつでも、どこでも、たれとでも」挨拶を行うには、当たり前前の挨拶や生活を毎日続けることで成し遂げられると強く感じた。	C
-------------	---------------	--	----------

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた　B：具体的な活動はなされたが目標は達成できていない　C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ・目標を立て、それを達成するために様々工夫された活動が展開されている。学校全体で元気なあいさつがされているので、子供たちに浸透していると感じる。	C
-------------------	---------------	--	----------

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちのあいさつはよくなされるようになってきている。今後もできる限り、毎日継続してあいさつ運動ができるようにしていきたい。また、あいさつの輪を学校外へ広げていきたい。 	A
------------------------------	---	----------